ぶっせい

No.10

二〇二三年七月一日、教区改編によって小松大聖寺教区が誕生しました。それに伴い「小松教区仏教青年会」も「小松大聖寺教区仏教青年会」として新たなスタートを切りました。左の案内文は小松大聖寺の全寺院、門徒会・同朋会などの役員さんへ郵送したものです。多くの方々に仏青の活動を知っていただき、興味を持っていただけると幸いです。

※この画像はAIで作成しました

小松大聖寺教区仏教青年会は、25歳から40歳までの幅広いメンバーが参加し、「宗祖親鸞聖人の念仏のみ教えを通して、青年の交流を深める」ことを目的としています。教区改編を機に、私たちの活動をより多くの方に知っていただき、新たな出遇いやつながりが生まれ、仏青の輪が今よりも広がっていくことを願い、この案内文を作成しました。

2022年度の活動内容は仏青新聞「ぶっせい」に、2023年度の活動予定は事業計画書に記載しています。仏青に興味を持たれた方、または会員になりたいと思われる方は、電話またはLINEにてお知らせください。仏青への加入は、僧籍の有無や性別は関係ありませんので、有縁の方にも仏青のことをご紹介いただけると嬉しいです。

今後の活動報告はInstagramでも行いますので、是非そちらもご覧ください！

初めから学ぶ声明作法

若手僧侶のお勤め研鑽の場である「初めから学ぶ声明作法」という講座を全六回にわたって行いました。小松教区声明会会長の畑大さんに講師をお願いし、仏青のメンバーが希望するテーマに関して丁寧に教えていただきました。

今年度は重い法要で勤められる八淘（やつゆり）の読法から始まり、仏青報恩講に関してのお浚いと復習、拝読文と御伝鈔の作法や読法を学びました。声を出したり本堂で実際に動きを確認したりと、講義だけではなく実技を交えながら進められました。

講座を通して基礎の確認や、普段は知る機会の少ない作法の知識を身に着けることができるため、非常に充実した時間となっています。

仏青報恩講

二〇二四年二月二十六日、仏青報恩講が執り行われました。

お勤めは正信偈真四句目下念仏和讃五淘です。事前学習として実施した「初めから学ぶ声明作法」で学んだお勤めの成果を確かめる場となりました。毎年実施している仏青報恩講ですが、ありがたいことに近年は少しずつ参加者も増えています。

お勤めの後は座談会を行いました。それぞれが今思っていること、課題や悩みなどを紙に書き、順番に話し合います。当然ながら僧侶も人間であり、様々な悩みや思いを抱えています。教えをともに聞き、話し合うことが出来る場は本当にありがたいと思います。

同朋新聞を読む会

『同朋新聞』を読みながら、気になったことや日頃の悩みなどを語り合いました。

次年度は「仏青輪読会」という名前に変わり、『解讀 教行信証』を輪読する会に切り替わります。

興味のある方はお気軽にご参加ください。

日時　毎月 第一月曜日
　　午後四時～六時頃
会場　光玄寺
　　（小松市串町ヌ一）

フェイスブックやってます

活動のお知らせや報告をしています。『小松大聖寺仏青』で検索か、QRコードを読み取っていただき、ぜひご覧ください。

役員改選

二〇二三年度から役員が変わりました。任期は二〇二五年度までになります。

会長
松永　悠　（長圓寺若院）

副会長 兼 会計
寶達　一道（法林寺若院）

事務局
佐々木　祐（称名寺住職）

新教区となり役員も代替わりして仏青は新たなスタートを切りました。今年度はこれまで積み重ねてきた活動を継続し、新たな試みを増やす方針で進めました。

若手が自由に活動できるところが仏青の長所なので、興味のある方は仏青へのご参加をお待ちしております。

（副会長　寶達　一道）

公開学習会

お坊さんって？

二〇二四年の三月から五月まで、全三回の連続公開学習会を行いました。若手僧侶が日頃の法務や生活を通して考えていること、これからどう歩んでいくのかを語る会として開催しています。

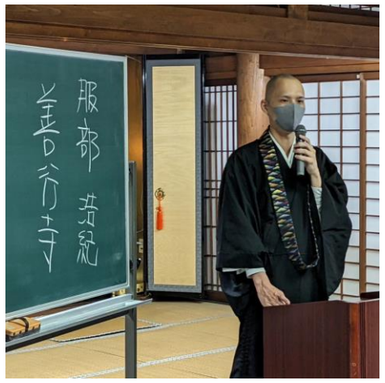
皆さんでお勤めをしてから担当者の方にお話しいただき、座談も行うことができました。予想よりも多くの方にご参加いただき、大変ありがたく思います。

第一回は、石川県羽咋郡志賀町にある照願寺の坪井成覚さんにお話しいただきました。

ご実家が被災された経験をもとに、「被災を含め人生では様々なことが起こります。しかし、仏法を聞くという事は、その様々な事柄に向き合あっていけるような覚悟を賜るということでもあるかと思います。」と述べられ、現地で力強く復興作業に取り込む方々のお姿に感動されたことや、お聖教のお言葉にも触れながら、多岐にわたるお話しをしていただきました。

第二回は、加賀市山中温泉にある長寿寺の二木大地さんにお話しいただきました。

二木さんは、「親鸞聖人は三部経の千回読誦をやめた後、生活の中で苦悩する一人一人と改めて向き合っていかれたのでは？」と述べられ、二度のコロナ罹患で苦しむご友人を前に感じた無力さを通して人と向き合うことについて改めて考えさせられたこと、触光柔軟の言葉を元に「自分の浅ましさ、悲しさに触れ、共に向き合う場」の大切さについてお話しになりました。



第三回は、岐阜県にある善行寺の服部浩紀さんにお話しいただきました。

僧侶を志すきっかけとなった叔父さんのことや、「寄り添う」ということから、源信僧都の、「我、今、帰するところ無く、孤独にして同伴無し。」というお言葉を引用され、「たとえ家族であっても、心を開けなければ同伴者とはいえないのではないでしょうか」と述べられ、人間が誰しも抱えている本質的な孤独について、「孤独を生み出すものは自分の中にあると思います」とお話しされました。

公開学習会

救急作法講座

二〇二四年五月二十三日、救急作法講座を行いました。

近年の異常な猛暑により、お参りの場で体調不良を起こす方が増えてきています。そのような緊急事態に備えるために、小松市中消防署の米田さんに講習をしていただきました。

心停止時の胸部圧迫（心臓マッサージ）、ＡＥＤの使い方、熱中症への処置や対策、誤飲の対処法など、とても有意義な研修となりました。

災害支援活動

二〇二四年一月一日の能登半島地震により、能登の地域にお住いの方々は甚大な被害を受けました。

仏青では何ができるかを考え、寄付から始まり、さまざまな支援活動に関わっています。いくつかをご紹介します。

① おてらcafé（カフェ）

能登から南加賀（加賀市・小松市・能美市など）に二次避難されている方のために開かれたカフェです。

二〇二四年二月より開催され、仏青メンバーは物資の提供や参加者の方の送り迎えを担当させていただきました。

こんな時だからこそ話を聞く場所、話ができる場所が必要であり、その大切さを感じました。

②七尾における支援活動

二〇二四年一月二三日、元仏青メンバーが七尾市在住ということもあり、お見舞いと能登教務所へ支援物資を届けに行きました。

③能登における支援活動

二〇二四年三月二九日、珠洲市三崎町への炊き出しボランティアに同行して来ました。

炊き出しボランティア

南加賀

能登半島地震を契機に「炊き出しボランティア南加賀」という任意団体が立ち上げられています。代表者は小松大聖寺教区第二組遠慶寺の加藤雅輝さんです。活動内容は主に炊き出しですが寺院の片付けなどもされています。

フェイスブックに活動内容が投稿されていますので、活動に加わりたいと思われた方はぜひご参加ください。

支援活動の際に立ち寄った見附島の様子